

## 令和2年度 さいたま市立向小学校 学校関係者評価書

さいたま市立向小学校

学校関係者評価委員長 野口 吉明



### 1 学校関係者評価の実施体制

#### (1) 構成人数

7人

#### (2) 実施回数

2回

### 2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- ・学校評価アンケートの設問内容について、市内共通の質問内容であるのか。全てを網羅することは難しいが、状況に応じて質問内容を変えてもよいのではないかと。
- ・学校評価アンケートの回答に対し、「そう思わない」という声を大切にしていきたい。保護者代表としては、そのような回答をした保護者の意識を高めていきたい。
- ・質問「学校であいさつをしている」で、児童・保護者の評価に対し、教師は低いのではないかと。
- ・質問「先生はほめてくれる」に対して、児童は、「教師の児童を見る目がひいき目」と捉えることもあり、教師が児童にどのように接していけばよいかとも難しい。
- ・児童間のコミュニケーションが不足していると思われる中で、いじめや見えない心の闇や傷が心配であり、子どもの様子にしっかりと向かい合えていない保護者もいるのではないかと。また、言葉遣い等児童は親の影響を強く受けていると感じる。保護者も子どもへの接し方、言葉遣い等に気を付けなくてはならないのではないかと。
- ・質問「学校はきれい」に対しての、評価が低いのではないかと。以前、汚れがひどかった箇所を保護者が協力して掃除したこともある。現在は、3階廊下（昇降口吹き抜け部）のアクリルの汚れが気になっている。
- ・各学年のオープンや中庭の活用状況はどのようなか。ぜひ、活用して欲しい。

### 学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・学校評価の質問内容については、毎年見直しているが、経年変化を捉えるために同様な質問になることがある。文言は多少異なるが、児童・保護者・教員の質問がリンクするように設定している。
- ・質問「学校であいさつをしている」に対し、教師の評価が低いのは、教師の児童への要求が高いのと思われる。児童は小さい声でもあいさつをしているが教師はそれに対し、もっと大きな声でと声かけをしてしまうことがある。あいさつだけでなく、教師が児童の見本となるように意識を高めていく。
- ・教師の児童を見る目については、教師の力量に関わっている。毎週行われる生徒指導委員会や日常の職員室内でも学年の壁を越えて児童の人間関係や学校生活の様子等について情報交換を密にするとともに、共通理解のもとに対応していくことで、教員間で助言をしあいながら教師の力量を高めていく。
- ・校内の清掃は、今年度コロナ禍の状況であり、職員と児童だけで行った。児童はよく掃除をしているが、行き届かないところもあった。来年度は保護者にも協力を得、児童の手の届かないところまできれいにしていく。
- ・各学年のオープンは、月1回程度の学年朝会や1・2年間の交流会等で活用している。中庭は現状では活用していないので、今後活用を検討していく。

さいたま市立向小学校長 稲田 正平